



「褒美」

保護者の方からの相談の際に「褒美」を用意することについて、「物でつるみたいではない」「褒美がなければ動かないようになってしまうのでは」といった心配のお話しをうかがうことがあります。そこで、今回は、「褒美」について考えていきたいと思います。

「褒美」というと、例えば、城主大名などが家臣や町民の活躍を褒める場面で「よくやった。褒美をつかわせよ」といった時代劇のシーンがわかりやすいのではないのでしょうか。他にも、学校を一日も休まなければ「皆勤賞」があったり、大相撲では優勝ではないものの「技能賞」「殊勲賞」「敢闘賞」といったものがあります。他にも様々なことが思い浮かびますが、「褒美は結果や功績、そこに至るプロセスに対して与えられるもの」ということ

を、与える側がどう捉えているのか、ということが褒美の根本的なことになってくるように思います。

では、冒頭のような心配はなぜ起きるのでしょうか。それは、どんな約束、どんな目的、どんなプロセスに対する「褒美」なのか、明確ではない場合が多いから、ではないかと感じます。確かに、毎日のこととなると「言われる前に〇〇をする」「△△の前に□□する」「毎日××を続ける」「テストで何点以上とる」といった日常的な親子のせめぎ合いは、家庭によっては重大事案になることでもありません。

さて、こんな昔話を想像してみてください。『やっつけないのに「やっつた」、できていないのに「できた」と言う家臣がいたとします。周りの家臣もその言動に不思議顔です。それでも城主大名は、その言葉を鵜呑みにして「よくやった」と褒美を与えました。皆さんは、この話をどう思うでしょうか。様々な意見や発展がありそうな問いですが、多くの方は城主大名に対して「褒美あげちゃうの?」「何をみてるのだろう?」「うまくのせられているな...」と思うのではないのでしょうか。「褒美を上手に活用してい

る家庭の様子で共通していることは、「この時はよかったのに、この時はダメなの?」とならないように、同じ状況の時にはできるだけ同じ対応をしたり、褒美を与えるときの条件を徹底する、ということ。例えば、「毎日××を続ける」を達成したら記録し、15回続けばお菓子一つ、お菓子は我慢し30回記録すればゲームの課金』のように、こどもの興味と選択を尊重している家庭もあります。他にも『夏休み中などは10時まで宿題を終わらせれば決められたゲーム時間にプラス15分9時までで終わっていければ30分』のように、時間をご褒美にしている家庭もありました。ただ「物」を与えるのではなく、モチベーションにつながるような意味合いが伴っていると無理のない有効な褒美になっているようです。

私たち大人自身のことを振り返ると、何かしらの理由をつけて、自分に甘くなっていることが多いことも否めません(そうではない方もいらっしゃると思いますが)。大人だって、突然「褒美があったら嬉しいですし、褒美があった方が頑張れます。自分はどんな城主大名か、思い返してみてもいいかもしれませんね。

# 令和4年 成人式 実行委員募集!

令和4年1月に実施予定の軽井沢町成人式の実行委員を募集します。  
一生に一度の成人式を、心に残るものにしませんか。



- 内 容** 成人式の企画および準備・運営等
- 募集人員** 8名程度
- 募集対象** 平成13年4月2日生から平成14年4月1日生で式典と実行委員会に出席可能な方で意欲とアイデアにあふれた方
- 応募方法** 電話で申し込んでください。 ※定員になり次第締め切ります。

【申し込み・問い合わせ】 中央公民館 ☎45-8446